



かけはし

—解脱会太陽精神碑—

～ 新たな道へ～

創立41周年・記念館内大会

第1部 記念式典 第2部 学年別試合 第3卒業生壮行会



★第1部記念式典★中学卒業生には永久門下生証の楯、小学卒業生には記念のキーホルダーが贈られました

3月10日の日曜日に少年から一般までの門下生と保護者の約300名が参加して創立41周年記念館内大会が開催されました。第一部は始めに創立以来、館の伸長、発展に多大なるご尽力を賜りました物故者、並びに東日本大震災で不幸にも亡くなられた方々に対し黙祷を捧げ、その後少年部の卒業表彰・高校・大学を卒業するOB門下生の紹介・昨年の全国選抜剣道大会で優勝し鍊心館OB門下生、初の日本一に輝いた田中君・泉君に優秀選手表彰が贈られ、最後に昇級者認定証の授与が行われ、厳粛裡に第一部が終了しました。

第二部の学年別試合では、一戦一戦、学年ごとに一年間の稽古の成果が充分発揮され白熱した試合が展開されました。試合終了後、閉会式が行われ、まず各学年の優勝・入賞者の表彰、その後の大将交代式では、大将・長峰君から新大将・伊藤君に鍊心館の歴史と伝統が受け継がれた大将の指揮刀が手渡され、新中学3年生を中心

★第1部記念式典★大学・高校を卒業するOB門下生



に新たなスタートが切られました。第三部は後援会主催による卒業生壮行会が行われ、卒業生から先生方・仲間・家族への心温まる感謝の言葉と後輩達への激励の言葉と共に数々の思い出が紹介されました。また卒業生保護者からは、子供達の成長を喜び、鍊心館への感謝の気持ちが込められた優しい歌声とメッセージが贈られ、後輩中学生からは、この



★ 第2部 學年別試合 ★



日の為に皆で気持ちを一つにして作った特大のメッセージと共に、涙・涙の歌のプレゼントがありました。壮行会最後には、館長先生より卒業を祝い、はなむけのお言葉と、式典で撮影した記念写真が一人一人に手渡されました。そして卒業生保護者より謝辞があり、卒業生は全員の先生方に激励の握手を戴きつつ、後輩達と保護者で作った花道を盛大な拍手で送られ、希望を胸に「新たな道へ」羽ばたいて行きました。

選手宣誓・副大将永野 順大

演武 木刀教室代表10名

行 事 予 定



《5月》

○ 館の行事

- 12日 解脱会春季大祭参加（全門下生・10時集合～14時終了予定）
18日 剣道体験教室（10時～11時）
19日 後援会主催親子レクリエーション
《場所》とちぎわんぱく公園（壬生町） 《集合》午前7時30分（時間厳守）
※雨天時 わくわくグランディー科学ランド（宇都宮）
※稽古の休み 3日（金）～4日（土）祝日の為、
7日（火）～11日（土）解脱会春季大祭の為、お休み。

○ 大会・審査会

- 1日・2日 八段審査会（一般・京都市立体育館）
2日～5日 第109回全日本剣道演武大会（一般・京都武徳殿）
3日～5日 第20回東日本少年剣道交流錬成大会（小中代表・沼田市民体育館）
11日・12日 七段、六段審査会（一般・名古屋市スポーツセンター）
18日 埼玉県剣道道場連盟女子稽古会（一般・小学女子・大宮武道館）
25日 第68回国民体育大会成年の部予選会（一般・大宮武道館）
第55回全国教職員剣道大会予選会（一般・大宮武道館）
南部地区稽古会（一般・大宮武道館）
25日 第31回剣竜旗争奪東日本少年剣道大会（小中代表・茨城県立武道館）
26日 第42回竹紫館剣道大会（小中代表・蕨市民体育館）

○ 受入行事

- 11日・12日 第162回解脱会春季大祭（解脱会）

《6月》

○ 館の行事

- 2日 剣道体験教室（剣道祭の中でチャンバラ大会を行います！）

○ 大会・審査会

- 2日 第30回北本市民剣道祭（小、中、高、一般・解脫鍊心館）
第22回埼玉県高齢者剣道大会（一般・県立武道館）
第17回埼玉県女子剣道選手権大会（一般・県立武道館）
6日 埼剣連月例稽古会（県立武道館）
8日 南部地区稽古会（一般・大宮武道館）
9日 埼玉県少年剣道低学年錬成大会（小学低学年・解脫鍊心館）
16日 段位審査会（初～三段・熊谷市民体育館）
※学校剣道部所属者以外は直接鍊心館に申込みのこと。
16日 第58回知事杯争奪剣道大会（小中代表・大利根町文化体育館）
29日 第7回埼玉県剣道道場対抗優勝大会（小中、一般代表・戸田市スポーツセンター）
第7回埼玉県小・中学生女子個人選抜剣道錬成大会（小中女子代表・戸田市スポーツセンター）
30日 蔵の街剣志会創立25周年東日本選抜少年剣道大会（小中代表・栃木）



○ 受入行事

- 2日 第30回北本市民剣道祭（北本市剣道連盟）
9日 埼玉県少年剣道低学年錬成大会（埼玉県道場連盟）

★ 三 部・卒 業 生 社 行 会 ★

★ 大 将 交 代 式 ★



長峰龍汰君から新大将の伊藤勇太君に指揮刀が引継がれ、固い握手が交わされた



保護者謝辞 代表 長峰初恵さん

卒業生から先生方へ花束贈呈



卒業生保護者によるコーラス！
～それが大事～ (大事MANブラザーズ)



特大のメッセージと共に涙・涙の歌のプレゼント！
後輩中学生から、先輩達に「思いを伝えよう！」を
合言葉に沢山練習してきました。

「～3月9日～」(レミオロメン)

★ 卒 業 記 念 写 真 ★



～お知らせ～

☆入門おめでとうございます-----

中1 久保田湧太 小4 及川 雅斗
小4 小野寺 慎 小4 久保田 祐
小4 千木良百紅 年長 柳 瑞里



☆昇段おめでとうございます-----

五段 坂田卓也 一平成25年3月10日取得分一

～新人紹介～

鍊心館に専従の先生がはいりました！
二人共に鍊心館のOBでもあり学生時代は
国体・インターハイ・大学選手権、各種大会等、
で活躍された先生です！

こばやし たつや
小林 竜也先生

日本一を目指しこれから一緒に
頑張りましょう！



かとう じゅんこ
加藤 順子先生

まだまだ未熟者ではありますが子供
達と一緒に私自身も精一杯頑張って
いきます。宜しくおねがいします



☆大会通信-----

2月★東日本如月剣道大会



中学生男子団体 第3位
泉・谷口・新井・長峰・伊藤
中学生女子団体 第3位
新井怜・小林・泉
小学生低学年団体 準優勝
大西・新井・内村

3月★森島健勇旗争奪東日本選抜少年剣道大会

小学生団体 敢闘賞
低学年個人 内村日向 敢闘賞
★埼玉県低学年剣道錬成大会
優勝 大西・新井・内村
★さくら草旗剣道大会 準優勝



内村・栗原・谷口・新井・鈴木・新井・伊藤
★水戸全国大会 殊勲賞(ベスト24)



解脱 萩松・大泉・新井・林・鈴木
北本 栗原・内村・野添・谷口・小林

編集後記

先日の館内大会では多くの方々に参加、お手伝いを頂きありがとうございました。卒業生が逞しく見え、寂しさもありますがこれから皆の成長を楽しみにしています！

4月に入り鍊心館に新しい先生を迎えてこれまで以上の指導を目指し頑張ります。(Y)

けん おし 剣の教え 78

われいがいみなしなり
～我以外皆師也～

館長 田中 宏明

涙と共に

◆今年も館の創立を祝う記念館内大会が、41周年を記念して開催された。一部の記念式典、二部の学年別試合、そして三部は今年小・中・高・大学を卒業する門下生の壮行会と盛沢山であり、この館内大会を一日経験すれば鍊心館の一年が、創館以来の積み重ねられた41年のあゆみが理解頂けるものと確信する。◆試合で流した涙、艱難辛苦を共にしてきた先輩達を送る涙、送られる涙、それを見守る慈愛の涙。歌の文句ではないが、流した涙の分だけ強くなれる、優しくなる。「剣の道に卒業なし！！」今日もこの道に精進できる幸せに感謝し、益々の健闘、活躍を期待するものだ。併せてこれまで、ご指導ご支援を頂いた関係各位に紙面をお借りして心から御礼を申し上げる次第である。

卒業生へ

◆新年度を迎える、それぞれが夢と希望と少しの不安を抱いて新しい環境でのスタートを切ったことと思う。その中でも特に、中学3年生だった者は高校1年生に、高校3年生は大学1年生に、大学4年生は社会人1年生となり、最上級生としての立場から新米1年生へと大きく立場が変わる。どうか、これまで以上に謙虚な気持ちを忘れずに、更に成長してもらいたいと願うものである。◆そんな皆さんに、改めて再確認ということで書かせて頂くが、剣道ではよく「守破離」と教えられる。元々は茶道の千利休の言葉だが、「守」とは師に教えられたことを正しく守りつつ修行し、それをしっかりと身につけること。「破」は師に教えられしっかりと身についたことを自らの特性に合うように修行し、自らの境地を見つけること。「離」はそれらの段階を通過し、何物にもとらわれない境地をいう。これは一生の修行の中から捉えた教えと同時に、その段階に応じての「守破離」があるとも教えられている。新1年生、あるいは新社会人となった者は、まさしくこれから「守」の学びをしていくわけだが、何事においても基礎基本が大事であり、厳しく辛い期間になるとは思うが、ここをやり抜いて突き抜けた時に、本当の楽しさや喜びを知り「破」の応用に入っていける。◆ある本に、名門横浜高校野球部、渡辺元智監督の話としてこんな事が書いてあった。「私の目指す野球はノーサイン野球だ。監督がサインを出さなくとも選手達が自分達で判断してゆく、これが理想だ。しかし、ノーサイン野球は自由放任の教育からは生まれない。自主性は楽しさから生まれる。楽しさは厳しさから生まれる」と。苦しいこと、辛いことから逃げていては残念ながら前には進めない、忍耐が必要だ。ここを越えて初めて楽しさを知り、そこから自主性が生まれ、一段階上の歩みが始まるのだ。「千里の道も一歩から」涙で送られた卒業生諸君の健闘を祈らずにはいられない・・・。